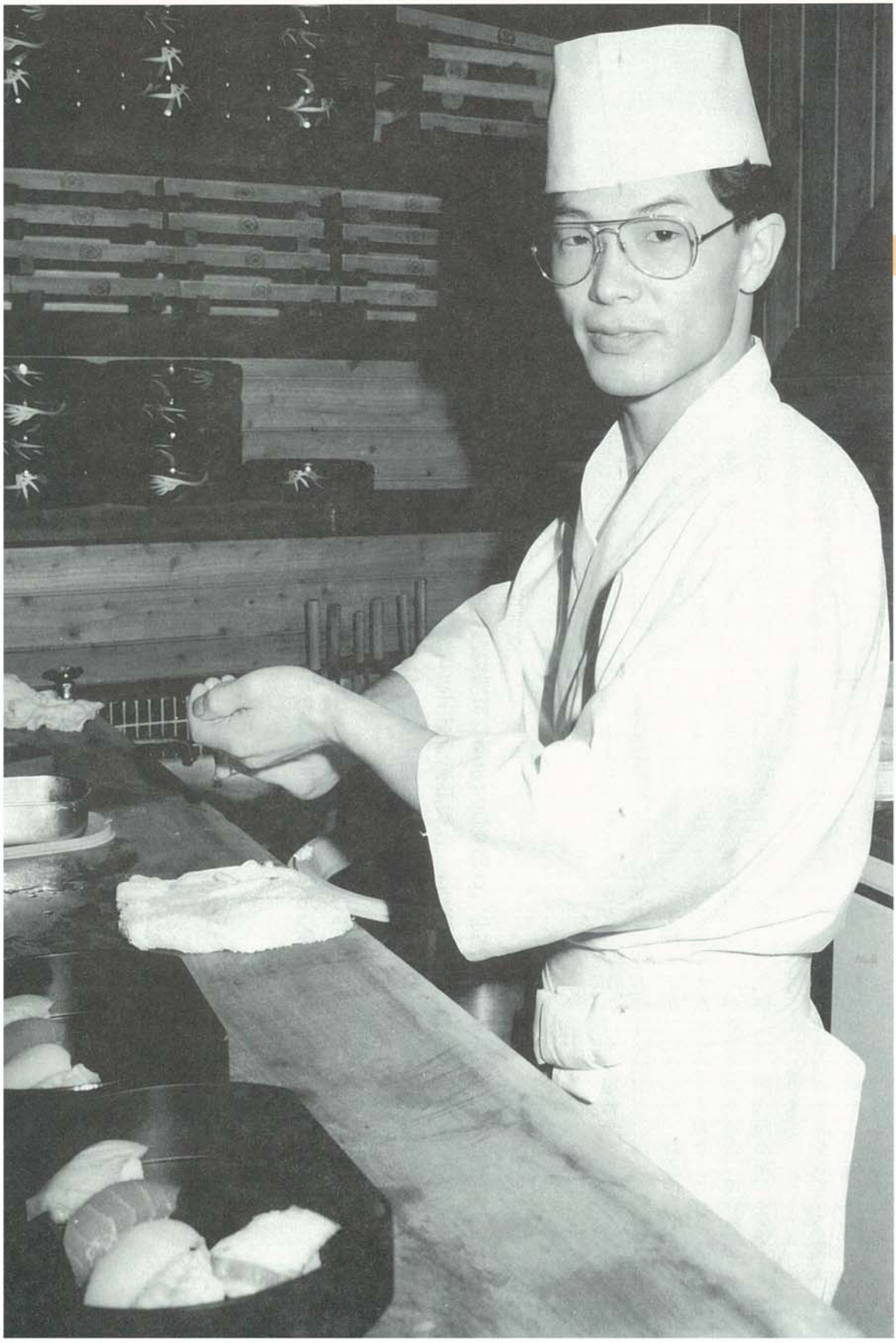
広報 あさひまち
ASAHI-MACHI
2 1991 FEB. 月号 NO.411



シリーズ〝働く〟

手さばきとリズムが勝負の寿司職人

「つまんだ時くずれないで、口に入れた時さらりと広がるように握る。これが握りのコツでしょうね」と語るのは斉藤頼靖（よしのぶ）さん（栄町・27歳）。

高校卒業と同時に、山形市内の寿司店で三年間人にはいえない修業を行い、家業の寿司・割烹店を継いで今年で六年目。忙しい仕事の合間をみつけては、朝日川でフライ・フィッシング（毛バリを使用する魚つり）を楽しむことが一番の趣味。

新鮮な〝ねた〟に、できるだけ体温を伝えない手さばきとリズムは寿司職人そのものだ。

ゴルフ場開発を考える

〝リゾート列島〟日本といわれ、全国各地でゴルフ場開発を中心にリゾート地づくりが盛んに行われていますが、その開発の波が私たちの身近なところまで進行してきました。

町でも、水本と大谷の二か所に民間による18ホールのゴルフ場建設の計画が急浮上。地元では開発に対する不安や期待など、活発な話し合いがなされています。

私たち町民にゴルフ場開発は何をもたらすのか。今回はゴルフ場をめぐる動きについてリポートします。

水本地区に計画されている開発予定地（正面の山林一帯）

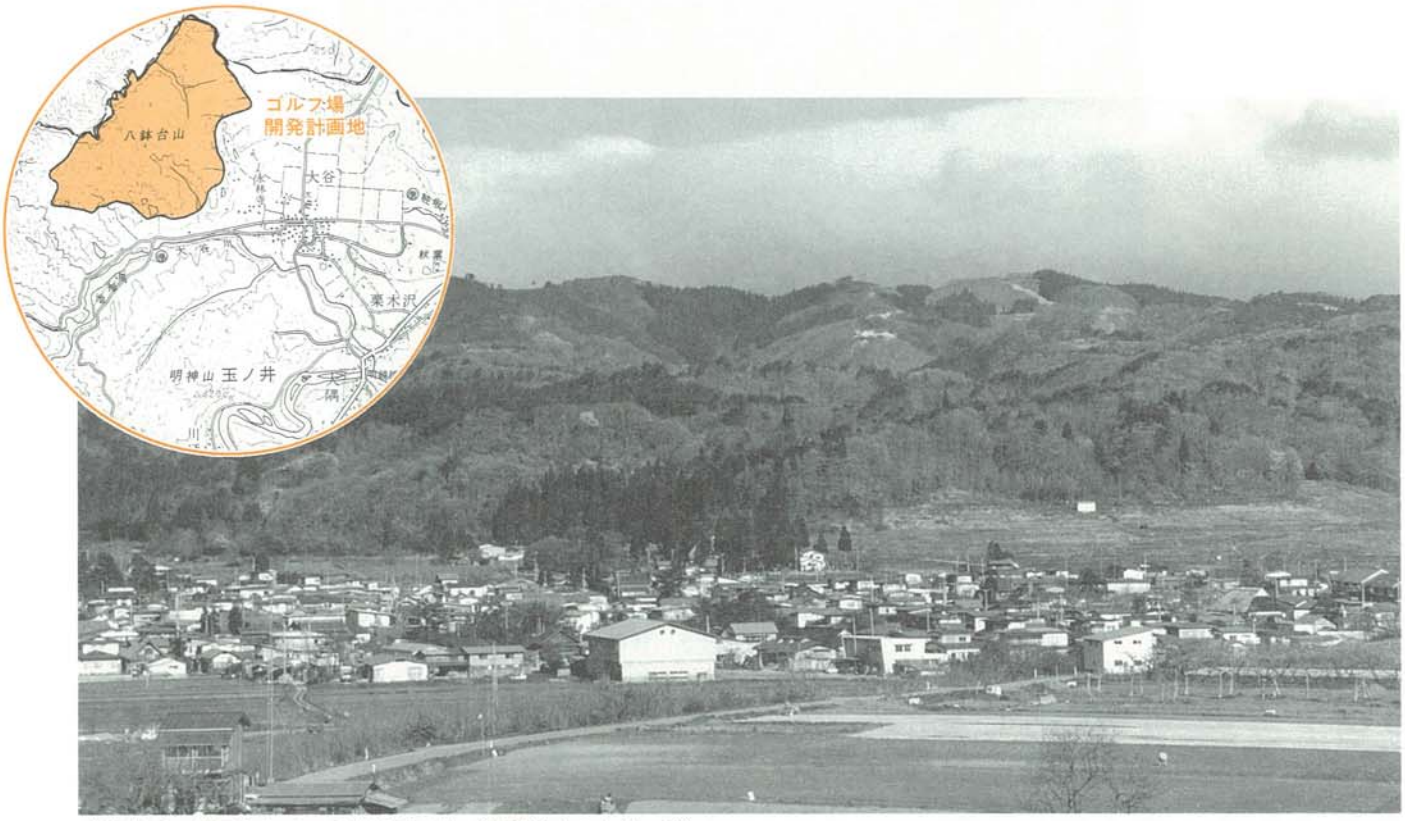
最近、第三次ゴルフブームといわれ全国的にゴルフ場の造成が盛んに行われています。これは「国民のだれもがゆとりのある生活」を楽しめるように、国や地方公共団体が広域的な総合保養地域を整備するとしたリゾート法（総合保養地域整備法）によるところが大きいといわれています。

各地で異常な速さでゴルフ場建設が進められているため、周辺の自然環境や水質への影響をめぐって社会問題化している現状です。すぐれた自然環境や生活環境ならびに、地域社会の将来への影響を考えた場合、開発計画に歯止めをかけるべきだという意見がある反面、各地の自治体で「地域活性化」の一手段として幅広いゴルファー層の拡大を背景に、ゴルフ場の新規開発に強い期待を寄せているのも事実です。

県内に五〇か所の計画

最近のゴルフ場の開発状況をみると日本のゴルフ場数はアメリカ、イギリスに次いで第三位の水準にあるといわれています。林野庁が平成元年十二月現在で調査したところによると、営業中のゴルフ場は一、六九〇か所、造成許可済が三〇四か所、審査中が七〇四か所、計画中が七八六か所となっており、これら全てが許可された場合、現在の約二倍（三、四八四か所）を越えることになります。

山形県内の状況をみると、既設のゴルフ場が八か所（川西、天童、山形、酒田、鶴岡）で一二六ホール五八五ヘクタールです。また、平成二年五月現在で県に申請中のものが、十一件（山形、天童、山辺、寒河江、西川、河北、村山、尾花沢、大石田、新庄、南陽、川西）二一六ホール、一、三八一ヘクタール。そ



大谷地区に計画されている開発予定地（集落後方の山林一帯）

の他にも計画中が三十数か所あるともいわれ、これら全てが完成すれば五十数か所にのぼると予想されています。

大谷と水本のゴルフ場開発計画が提示

現在、朝日町においても二か所のゴルフ場の計画が持ち上っており、その二か所の内容について紹介します。

ひとつは、大谷地内に計画されているもので、（仮称）朝日ゴルフ倶楽部の名称で開発業者は山形アサヒ開発株式会社（代表取締役・野口三郎氏・本社山形市・資本金一千万円）が計画しているもの。大谷集落から西へ約一キロメートル県道左沢浮島線の北側一帯一七四ヘクタールを開発しようというものです。総事業費七十二億円で平成七年六月オープンを予定し、大規模土地取引等事前指導申出書が町に提出されています。これを受けて町では意見書を添付し県に上申しなければなりません。その意見書を作成するため、役場部内の検討会や地元のみなさんの意見の集約を行っているところです。

もう一か所は水本地内です。主要地方道（県道）中山三郷寒河江線の上芦沢と接待の北西一帯約一三三ヘクタールで、（仮称）朝日カントリークラブと称し開発業者は株式会社ウンノハウス（本社山形市）が計画しています。これまで、業者による説明会が地元住民に対し三回行われましたが、町に対する書類等による正式な申請はまだ提出されていません。

ゴルフ場開発によるメリットは

アメリカの『一九八九年版ゴルフダイジェスト年鑑』の数字によるとゴルフ人口のトップはアメリカで二、三〇〇万人、二位が日本の一、二〇〇万人、三位カナダ二二〇万人の順となっています。従来、中・高年層の男性が中心であったゴルファーが、最近では若年層に広がり、特に女性ゴルファーが急増しています。そのため、土、日曜日はもちろん平日においても予約を取ることが難しいなど、ゴルフ人口の着実な増大によりゴルフ場経営が企業にとって魅力あるものとなってきています。

ゴルフ場利用者の推移をみると昭和五十年を一〇〇とすると、五十五年には一三〇、六十年には一六三、平成元年には二一五

ゴルフ場開発先進地 川西町メモ

川西町は置賜盆地の中央部に位置し、総面積一六、七四二ヘクタール、標高二〇九メートル～六三五メートルと広い丘陵地帯です。

▼ゴルフ場数　三か所
サンマリーナ玉庭（一一七ヘクタール）
米沢カントリー（六九ヘクタール）
山形スプリングスカントリー（八五ヘクタール）

▼町財政への影響（三か所）
固定資産税額　三、三六〇万円（税率1・4％）
ゴルフ場利用税交付金　二、四〇〇万円
（どちらも平成二年度予算）

▼地元雇用（正社員）
サンマリーナ玉庭　一四人
米沢カントリー　三人
山形スプリングス　五人

▼その他
現在町には四番目のゴルフ場建設の計画があるが、農協青年部や婦人部を中心に反対運動が起きている。反対理由としては自然環境の破壊と農作物に対するイメージダウンを掲げている。

北部地区の各団体の代表者120名による話し合い

となっており、この十五年ほどで二倍以上に増えています。

また、ゴルフ場開発によって当該地域経済が受ける様々なメリット（利益をもたらす面）が魅力のため、リゾートブームとかみ合ってゴルフ場開発に拍車をかけているものです。

ゴルフ場が地域経済に及ぼすメリットとしては

①所在市町村及び近隣の市町村に一〇〇人程度の雇用が発生します。（夏期間の臨時雇用、冬期間は失業保険対応）

②建設事業費約一〇〇億円の投資が見込まれるので、その一部が地元に還元される可能性があります。

③地元市町村に固定資産税とゴルフ場利用税交付金によって一千万円から二千万円の増収が見込まれます。（但しこの数字は一般的なもので土地や建物の評価によって一概にはいえません。また、仮に二千万円が増収になったとしても、その内の75％は地方交付税で減額されてしまうため、実質的には五百万円前後の増収となるようです。）

一方急増するゴルフ場開発によって、開発に伴う水質汚染や自然環境への影響を懸念する意見や反対行動が増えています。

ゴルフ場の造成やゴルフ場そのもののデメリット（不利益をうける面）としては、

①一ゴルフ場が平均一〇〇ヘクタールを越す広大な面積を開発することにより、大量の木を伐採し芝を植えるため保水力の低下が心配されます。

②造成工事が急ピッチで大規模に進められるため、災害等の発生や土砂の流失による河川の汚染や農業用用水、生活用水に対する汚染が心配されます。

③ゴルフ場がオープンしてからは、除草剤や殺虫剤等の農薬散布による農業用水や生活用水の汚染が心配されます。

以上が一般的なゴルフ場開発にかかるメリット、デメリットでしょう。

大谷土地改良区はゴルフ場建設に反対

一月三十日、北部公民館で北部区長会と大谷連合区が主催し、大谷地区建設予定のゴルフ場問題についての検討会が行われました。出席者は北部地内の区長をはじめ町議会議員、北部村おこし協議会の役員、それに大谷地区の各種団体の代表者ら百二十名が集まりさまざまな角度から話し合われました。

その中からいくつかを紹介します。大谷土地改良区の代表者からは①ゴルフ場建設予定地のすぐ下を大堰（農業用水路）が流れており、ゴルフ場に散布する除草剤による用水の汚染が心配される。②森林の伐採により開発地区内にある溜池の水資源の枯渇が予想される。③ゴルフ場造成中の大雨などによる災害発生が懸念される。以上の理由で土地改良区としてはゴルフ場開発に反対であることが表明されました。

また、みどり豊かな町づくりや「地球にやさしい町宣言」をしている朝日町にゴルフ場が出来ることはふさわしくない等の指摘もあり、総体的にはゴルフ場開発に対する不安の声が多く聞かれました。

しかし、ゴルフ場に関してまだまだ分らない面も多くあり、今後十分検討することが必要なことから、この日の話し合いをもとに、北部区長会並びに大谷連合区が中心となり、関係の各機関と連携を密にし慎重に対応することになりました。

大谷のゴルフ場計画区域内にある農業用溜池（西堤）

町議会に特別委員会を設置

水本地区に計画中のゴルフ場については、区長さんを中心に

計画図面を広げて検討する大谷の区長さんたち

ゴルフ場開発で町の活性化を

今野正昭さん（栄　町）

町内にゴルフ場建設の話が持ち上がってから、各方面で検討していると伺っています。また、新聞折り込み等で建設反対の声のあることも知っていますが、賛成の声は表面に出てきません。ゴルフをするしないは別にして賛成の声は相当数にのぼるものと思われます。

一連のゴルフ場たたきは環境破壊や農薬汚染が主な原因のようですが、これらのことはゴルフ場に限ったことではありません。道路建設、スキー場、農業経営など人間が生活していく上で当然起こることです。一部のゴルフ場が悪影響を及ぼしたからといって全部がそうだというのは短絡的であり、その教訓をもとに規制が改善されているのです。

私がゴルフ場に賛成するのは、単にゴルフをするからということだけでなく、現在の町の姿を憂慮しているからです。ゴルフ場は地域経済にも町財政にも貢献するのは事実でしょう。地域が発展していくには、自然、住宅、商店街、レジャー施設などがバランス良くなければならないと思います。

最近はゴルフ人口が急速に増えています。生活の向上とともに庶民のスポーツとなりました。

このニーズの高まりのなか、町の一部にゴルフ場が建設されることにより、将来にわたり町を荒廃させ、住民生活を窮地に追い込むような事態になるとは考えられません。当然、建設に当たっては住民の意見も十分反映されるものと思います。

『地球にやさしい町宣言』はだれのもの

安藤竜二さん（大谷１）

空気神社、地球にやさしい町宣言、エコミュージアム構想、最上川の清流を取りもどそうと行われる合併処理浄化槽、自然を尊ぶ町民憲章、いったいこれらは何のためにあるのでしょう。

先日、湾岸戦争による油まみれの鳥たちをテレビで見ました。目をそむけたくなるような残酷な映像に、なんて人間は愚かなんだろうと、悲しみをとおりこして憤りすら感じました。この思いは私だけが感じたことではないと思います。あの鳥たちも、今話題の山形の射殺されそうなカモシカも、酸性雨をはじめ産業廃棄物処理場、大規模林道、ゴルフ場等のリゾート開発で消失する動植物も全て私達人間の贅沢のための犠牲者ではないでしょうか。

ゴルフをすることが悪いとはいいません。しかし、膨大な面積を造成し、金銭のやり取りを主な目的とし、あまりプレイをする事ができない雪国のゴルフ場の在り方はあまりにもおかしすぎます。「他所と比べて害が少ないから」とか「我が町にもひとつぐらいあっても」などと狭い範囲で問題の処理をせず、もっと地球的規模の考えにたった解決をお願いしたいものです。そういう考え方をする時期に来ているのではないでしょうか。子供たちと一緒にトカゲやヘビに驚き、のんびり釣りをする、それが私の理想の父親像です。

目に見えない自然環境の汚染、何時起こるかわからない災害に不安を感じながら生活するのはとてもやりきれません。

地元意見の集約を三月まで行いたいとしていますが、賛成・反対のさまざまな意見があり、取りまとめにはまだまだ時間がかかりそうです。

また、この開発予定地に農業用水と生活用水の水源を求めている四ノ沢堰組合では、水質汚染の恐れがあるとして建設反対の姿勢を示しています。このようにゴルフ場開発に対する不安が広がりつつある反面、正面から賛成とはいえないまでも、ゴルフ場開発が町の活性化に役立つのではないかと期待する声もあります。

このような状況を受けて町議会では、全議員から構成されるゴルフ場問題特別委員会を二月四日の臨時議会で設置。特別委員会では、ゴルフ場開発が自然環境や農作物に与える影響等を調査し、開発の是非について三月まで結論を出したいとしています。

わたしたち町民一人ひとりも今回のゴルフ場開発について、よく考え将来悔いの残らない町づくりのため、大いに意見を述べたいものです。

係ではこの問題について町民のみなさんのご意見をお待ちしております。

町政スポット

年のはじめに米寿を祝う

37名へ賀詞と記念品贈呈

（右）つむぎとりをする小松さん（今平）
（左）記念品を受けとる渡辺さん（本町）

お祝いごとは数え年でということで、今年めでたく米寿を迎えた三十七名のみなさんに一月七日、町から賀詞と記念品が贈られました。

今回米寿を迎えたみなさんは明治三十七年生まれですが、健康でしかもかくしゃくとして現役で働らいている人も多く、明治生まれの人たちの健在ぶりを示しています。

本町の渡辺源四郎さんもそのひとり。毎日午前と午後店番をするのが日課。「計算をしたり顔なじみの客と話をするのがボケ防止や健康維持につながっているのでしょう」と顔色もよく元気に語ってくれました。次の方々が今年米寿を迎えたみなさんです。（敬称略）

本町　渡邊源四郎（源四郎）
元町　鈴木てる江（高雄）
〃　鈴木武二（武二）
宿　佐藤ひろ（信一）
下芦沢　大滝かの（松雄）
杉山　鈴木きみ（竹次郎）
〃　渡辺利八（新一）
松原　安藤さと江（辰雄）
大滝　柴田きくの（秀紀）
常盤　阿部金三郎（利雄）
長沼　阿部とみ（隆夫）
〃　鈴木サノ（健二）
西船渡　海野仁三郎（省一）
能中　海野まつの（俊夫）
太郎一　長岡るい（喜久雄）
太郎二　後藤よしに（照男）
太郎三　長岡まさゑ（喜美雄）
立木　阿部ぬよ（二郎）
〃　松田タマヨ（鈴雄）
白倉　佐竹鶴一郎（佐市）
〃　阿部サタへ（吉之助）
大舟木　佐藤つる（昭）
今平　小松つく（辰夫）
大谷一　大谷國勝（五助）
大谷三　清野きよ（きよ）
〃　白田まつ（初郎）
大谷五　白田よす（謙悦）
〃　鈴木捷夫（直）
真中　遠藤千代太（清明）
〃　阿部マサナ（精）
舟渡　堀キン（遠藤與志雄）
栗木沢　遠藤やゑ（たつよ）
川通　志藤まつゑ（功雄）
大暮山　阿部ナヲエ（武治）
海野まさの（幸吉）
大沼　小林留吉（昭吉）
〃　奥山ふか（ふか）
明鏡荘

星空の見える屋根が自慢

――常盤公民館落成式――

和風民家をイメージして設計された常盤自治公民館の落成式が一月十三日、地区民と関係者百三十名が出席して行われました。

これまで、同地区には自治公民館がなく西部地区公民館を利用するという、不便な活動を行っていました。

同施設は、水力発電施設周辺地域交付金事業の補助金を活用し、総事業費四千四百四十七万円、建築面積三百四十四・四九㎡の木造平屋建て。内部は大ホール、大会議室（和室）、小会議室二室、調理室。そして神社、仏閣などの建築に見られる大がらんを連想させる多目的ホールが特徴です。この多目的ホールからは天窓を通し、光り輝く星空を眺めることができます。設計にあたっては、町内で初めてというコンペティション方式を採用して十一業者を指名。その中から町内上郷出身の安藤則男さんの設計を採用したものです。建築にあたっては、常盤区民が一戸三十万円の負担金と、区出身者より多額の寄付金が寄せられ完成しました。

式典では、小林町長より「新築なった公民館を地域づくりの拠点として大いに活用してほしい」とあいさつ。続いて区民を代表し佐竹国雄区長さんが「区民の長い間の願いがかないこんなにうれしいことはない。これからは、常盤に住んでいることが〝最高のしあわせ〟といわれるような公民館活動をしたい」と公民館活動に新たな意欲を燃やしていました。

完成を喜ぶ常盤区民のみなさん

能中橋よろこびの渡り初め

県道長井大江線能中バイパス開通

主要地方道（県道）長井大江線の能中地内カニ沢に能中橋が架けられ、その開通式が一月二十一日行われました。

この橋は長さ四十㍍、幅員八・二五㍍、総工費九千八百六十八万円で完成。この橋の完成によって元能中から能中までの一・三㌔の能中バイパスが完成したことになります。

式では神事に続き関係者、地元地区民約七十名が渡辺三男さんの夫婦三代を先頭に橋の渡り初めを行い完成を祝いました。

渡り初めを行い完成を喜ぶ地元のみなさん

新築された分庁舎全景

役場分庁舎完成

昨年６月から役場駐車場東側に建設を進めていた分庁舎が、このたび完成しました。

この分庁舎は、役場の書庫や会議室が手狭になったため新築を行ったもの。鉄骨の２階建延面積686㎡、総工費１億240万円。１階部分は町有車14台を収納する車庫、２階には書庫や会議室などがつくられました。

申告と納税は正しく、お早めに

確定申告は3月15日まで

町・県民税の申告相談開始

今年も町・県民税の申告時期に入りました。

町では税務課職員が二月一日から三月十五日まで、各集落の公民館などに出向き相談に応じています。各集落の相談日は先の「おしらせ板」のとおりですので忘れないようご注意下さい。

なお、税金について不明な点は役場税務課（☎67－2111）までお問い合せ下さい。

立木地区の申告相談

ボケ防止は「趣味と近所付き合いから」

朝日町高齢者福祉大会

大会には300人を超す高齢者のみなさんが参加

二月七日、町中央公民館大ホールで町長寿クラブ連合会主催による高齢者福祉大会が盛大に行われました。

当日は、教育評論家の安達清先生が「老後の心」と題し記念講演を行いました。その中で寝たきりやボケ老人にならないためには、①高血圧になったらすぐ医者へ②バランスのとれたす（酢）こ（ゴマ）や（野菜）か（カルシウム）食事③動け、働け、ただいるな④趣味を持つ⑤近所付き合いを大切に⑥睡眠は充分になど六項目を分りやすく説明。

また、集会室では高齢者のみなさんの手づくり作品展も同時に行われました

カメラさんぽ

木のぬくもり伝わる新校舎

町立立木小学校完成

立木小学校（鈴木勲校長・児童数十七名）のヒノキをふんだんに使った木造二階建ての新校舎が完成し、一月二十日、新校舎の入校式が行われました。

当日は「子供は地区の宝」という地元学区民と関係者約百名が出席、古い校舎に別れを告げ木の香りあふれる新校舎に入りました。

児童たちは翌日から、さっそく新校舎に登校し、全員元気に勉強に励んでいます。

思い出いっぱいの旧校舎に別れを告げる

総ヒノキづくりの玄関

校歌をうたって入校を喜びあう児童

㈱朝日相扶製作所から寄付された学習机と椅子
体格に合わせて３種類21組と教卓３組が贈られた

しくなったいろりもある（図工室）

朝日連峰を思わせる三角屋根が特徴の新校舎

この校舎でもっと勉強したかったと語る六年生

三人が勉強してもゆったりしているヒノキの机

休み時間はこの多目的ホールが体育館がわりとなる

ポータートンと自動演奏ピアノ（音楽室）

最近はめずら

ひろば

■連絡先
役場企画情報課
企画広報係へ
☎67―2111（内222）

雪は友だち親雪づきあい

第四回栗木沢雪上レク大会

冬は寒くて、つらいもの？　雪を友だちにして思い切り楽しもう――と第四回栗木沢雪上レクリエーション大会が二月十一日、栗木沢農村公園で開催されました。

当日は、少し肌寒いものの絶好の親雪日よりに恵まれ、幼児から高齢者まで区民約二百名は「かんじきリレー」や「男女そり乗り」など冬ならではの競技にハッスルプレーを展開。ダンボールをブルドーザーのキャタピラに見立てのダンボールリレーでは、力余って思わず衝突する場面も。次々に展開される競技に大きな笑いの渦が生まれていました。

童心にかえって楽しむ男女そり乗り競技

くずかごの中から大きなプレゼント

お年玉つき年賀ハガキで一等当たる

西町の安藤利美さん宅で、お年玉つき年賀ハガキでみごと１等賞が当たりました。

この幸運のハガキは、安藤さんが書き損じたハガキの一枚。二女のゆう子さんの友人から、１等の１番ちがいのハガキをもらったという知らせで、くずかごを探したところ見つかったといういわく付き。

賞品の29型カラーテレビ（20万円相当）を前に安藤さんは「今年は住宅の新築や年賀ハガキの１等と新年早々縁起がいいですね」と喜びを隠しきれない様子。

賞品のテレビを前に喜びの安藤さん

西原／阿　部　拓　也くん（宮宿小１年）
　　晃　二くん（４歳）
　　阿　部　き　んさん（82歳）

ぼくのメガネばあちゃんは、若いばあちゃんのお母さんです。

毎朝玄関をはいたり、新聞をよんだり、時々ぼくたちとトランプやカルタをしてくれる、とても元気なおばあちゃんです。

学校から帰ると、かりてきた本をぼくがよんであげるのを、たのしみにまっています。

ぼくが大きくなったら、大すきなりんごやまんじゅうをたくさん買ってあげるから、いつまでも長生きしてください。

町民の

このひろばはみなさんのページです。話題やご意見、作品など、ご自由にお寄せ下さい。

ひとことトーク

海野つゑさん
（西船渡・51歳）

若い時からボランティア貯金
～みんなが支え合う高齢化社会～

日頃から私は、何かボランティア活動をやりたいときっかけを探しておりましたところ、一月より定期的に、老人ホームを訪問する機会を得ました。

どんなに丈夫な人でも、自立できなくなる時が必ず来るのです。若い人に迷惑はかけたくないという思いはどなたも同じでしょう。

私の老後も誰かの手助けを受けたり、老人ホームのお世話になるかも知れません。

そんなことを考えると今のうちに少しでもお手伝いをしておきたいと思うのです。

当町にも近年中に、老人福祉施設が出来るようですが、私達地域の人もそれぞれの立場で何かできることをお手伝いしたいものです。これからの高齢化社会は、みんなで支え合うことが必要だと痛感しております。

隣のリンゴ家族

堀ひのき (26) YFUJIO

ふるさと人国記 10

白田岩夫
―阿城大谷開拓村の団長―

ふるさとの青山に守られて、開拓精神はうねりとなって燃えていった。ふるさとのためにふるさとを去り、満州の大地に新しい村を創った。敗戦という痛手はあったが、そのうねりは今も那須大谷開拓地に、脈々と生きつづけている。

明治四十一年三月、大谷村の三河屋白田岩太郎氏の長男として生れた岩夫は、大谷農業会職員や青年団長の勤めの中で村の将来を憂い、満洲への移民の取りまとめに奔走した。

昭和十四年四月、推されて開拓団長となり、四十名の若者と満洲国浜江省阿城県の大地に入植した。昭和十九年までに、大谷を主に宮宿、左沢からも入植し、百五十戸の阿城大谷開拓村が誕生する。この新村を忠・勇・信・義・新興の五部落に分け、役場・国民学校・診療所・精米工場・日本酒工場を創建した。

しかし、昭和十八年ころから大東亜戦争も不利となり、白田団長はじめ応召者が続出。大谷開拓村は続く不安の中で、生き抜く決意を確かめ合っていた。

やがて、二十年八月敗戦となり、副県長らと共に彼も逮捕されたが、満人たちの陳情により銃殺を免がれ釈放される。日頃の友好にあふれる人柄が、彼等の心をゆり動かしたのである。

身を捨てての同胞救済と、帰国時の功績によって外務大臣表彰を受けた。戦後は東京で活躍したが、那須大谷開拓村の援護に力を惜しまなかった。

昭和五十六年十一月二十六日に、ふるさとの繁栄を願いながら、七十三年の生涯を閉じる。

文・杉 ひさし

ルールも簡単なインディアカ

インディアカでさわやかな汗

西部壮年のつどい

西部壮年のつどい（佐竹庄吉会長）がだれでも気軽にできるスポーツを普及させようと、一月二十七日、インディアカの講習会を健康増進センターで行いました。

当日は、町体育指導員の鈴木正己さんら四名の指導のもと、日頃の運動不足を解消。インディアカはバドミントンのコートを使用し、一チーム四～六人が入り、羽根の付いたボールを手で相手コートに入れ、その得点で勝ち負けを決するスポーツ。

参加者三十一名は、ルールの説明を受けた後さっそく六人一チームになり競技開始。打球の変化についていけず、思わず空振りをしてしまう人も見受けられ周囲の笑いを誘っていました。

スキーライフはエレガントに

レディース・スキー教室

エレガントシュプールは基本が大切

スキー技術の向上と、冬期間の運動不足を解消しようと１月13日と20日の両日レディーススキー教室が朝日自然観スキー場で開催されました。

参加者は定員を上回る30名。思い思いのカラフルなウェアーに身を包んだ〝白い恋人〟たちはファンタジーゲレンデやエアーサイドゲレンデに鮮やかなシュプールを描きました。

楽しい雰囲気の中にも、白倉スキークラブの先生から適切なワンポイントアドバイスを受け、恋人たちの〝足前〟は確実に上がった様子。コーヒーとケーキを囲んでの反省会も一段と花やいだ雰囲気でスキーの楽しさを存分に味わいました。

21度の急斜面に挑戦

第10回 町小体連スキー大会

町小学校体育連盟主催の第十回朝日町小体連スキー大会が二月一日、朝日自然観スキー場で行われました。

大会コースは、児童たちのスキー技術がレベルアップしたことから、ファンタジーゲレンデ上級コース（最大斜度21度）を使用。

町内の小学六年生と複式学級の五年生男女百九十一名がそれぞれ男女に分れ、急斜面にかかんにチャレンジしました。

当日は湿った小雪が降り続くあいにくのコンディションとなり、いまひとつスピードにのれない選手が多いなか、大井修君（立木小）と阿部咲子さん（立木小）がみごとなスキー操作で昨年に続き優勝。立木小の二人がそろって二連覇を達成しました。成績は次のとおりです。

出前学習は大繁盛

北部公民館ケータリングセミナー

北部公民館と自治公民館が共催で例年行っている出前学習会が、今年も舟渡公民館と大谷一公民館で開催されています。

この出前学習会は、地区公民館に地区民のみなさんを集めるのではなく、自治公民館を会場とし身近かな問題をテーマに集落単位で学習をしようというもの。

それぞれの公民館で１月から３月上旬まで行われる学習会は、交通安全や上手な話し方の講話からワラ細工・社交ダンスまでとバラエティーに富んだ内容となっています。

舟渡公民館での学習会

鈴木孝国くん（宮宿小五年）全国入選

第40回全日本年賀状版画コンクール

このほど郵政省が主催する第四十回全日本年賀状版画コンクールが開催され、町内の子供たちの作品が数多く入選しました。

なかでも宮宿小学校五年生の鈴木孝国君の作品は全国入選。

また、第九回全国はがき作文コンクールでも宮宿小学校一年生の柴田圭一君の作文がみごと努力賞に輝きました。入賞者は次のとおりです。

■全国版画コンクール▽入選／鈴木孝国（宮宿小五年）▽**佳作**／松田恭典（立木小二年）・高橋愛（水本小四年）・阿部咲子（立木小六年）

東北地方予選▽山形テレビ賞／松田恭典（立木小二年）▽**テレビユー山形賞**／村山彩（宮宿小一年）▽**山形放送賞**／鈴木孝国（宮宿小五年）▽**エフエム山形賞**／長岡康弘（立木小六年）

■全国はがき作文コンクール▽努力賞／柴田圭一（宮宿小一年）

力作ぞろいの応募作品

ふるさとめぐり〈9〉

伝統の舞いを継承する青年たち

ふれあいの心ひろがる獅子踊り

大谷四

大谷第四区は北部公民館の裏通りを東から西へ、旧大沼街道に通じる浦小路通りとして、古くから栄えてきた三十二戸の集落。今でも夕方になると買物客でにぎわっています。

霧も霞もみな吹き上げて
いまこそ雌獅子と
逢うが嬉しや

町指定民俗無形文化財、角田流大谷獅子踊り、演目、逢う獅子の一節です。江戸後期文化年間より伝承されてきた獅子踊りは、戦後、踊り手がなく解散寸前になったことがありました。その時第四区の青年たちが、伝統ある郷土芸能の保存継承を決意、幾多の困難を克服し伝承活動を続けて二十年になります。その間数々のイベント、大会等にも出演。

今では後継者も続々入会し、勇壮な舞いに打ち込む若い姿は、区の豊かな人間関係を生み出す源となっています。

この他に第四区には、大正会、昭和会とそれぞれ各年代の会があり、それぞれ持ち味を生かしながら村づくりに励んでいます。

（堀　敬太郎　広報委員）

急斜面を果敢に攻める各選手

●**男子回転**／（全長300m・標高差70m・22旗門）①大井修（立木小）②大井友輔（宮宿小）③長岡康弘（立木小）④海野義則（西五百川小）⑤阿部康史（上郷小）

●**女子回転**／（全長280m・標高差60m・17旗門）①阿部咲子（立木小）②渡辺歩美（送橋小）③長岡亜由美（西五百川小）④阿部聖子（西五百川小）⑤清野弥生（送橋小）

"ワンダフル"朝日自然観スキー場

アメリカ・コロラド大使訪問

本県と姉妹州の関係にある、アメリカのコロラド州の民間大使が二月四日、朝日自然観スキー場を訪れました。

コロラド大使たち十二名は、一月三十日から二月五日まで「蔵王コロラド村」で友好の輪を広げていますが、そのうちの一人で会社員で歌手、そしてスキー指導者のパラック・カラーさん（30歳）が自然観を訪問したものです。カラーさんは、前日ボランティア通訳として活躍している志藤一枝さん（川通）宅に民泊、家族のあたたかい歓迎を受けました。

カラーさんは、自然観スキー場について「家族連れで楽しめる温か味のあるスキー場ですね」とワンダフルを連発。また、自然観スキー学校のインストラクターとスキー帽子を交換するなど、友好大使ぶりを披露してくれました。

志藤政利さん（川通）とパラック・カラーさん

子供達と「共に学ぶ」

小さな教室の中の世界

今、私は西五百川小学校の４年生担任です。元気のよい子供達との毎日は、とても充実しています。担任としての思いは、「だれの教えでも素直に聞こうとする子供」に育てたいということです。春の子供達との出会いの日から、重ねられてきた多くの学習の中で、子供達自身も「他人の教えを素直に聞こう」としている姿を見ることができるようになってきました。

新しい出会い

春、始業式を終え、教室で子供達と話し合いをしていると、早く終わった高学年の子供達が廊下を通って行きました。突然大きな声で、

「かわいそうだな！ばあちゃん先生の担任で」

間髪をいれず、

「先生、気にすんなよ！ぼく達だれもそんなごど思ってないがらな」

三十一人の目が輝いています。

「先生、さよなら」

一度、一斉にあいさつをしたのに、また一人ひとり私に声をかけて教室を出て行きます。新学期、みんな燃えています。新しい出会いに、みんな期待しているのです。

ポテトチップス作り

四月から観察してきた、実習園のジャガイモの葉が枯れてきたので掘り上げました。掘りあげたジャガイモは理科の教材です。ジャガイモの切り口をスライドグラスにこすり、顕微鏡で観察しました。次に、おろし金ですりおろしてガーゼでこし、でん粉をとりました。そして、残ったジャガイモは、「ゆとりの時間」に料理することになりました。

私としては、扱いが安全なアルミはく包みの焼いもを提案したのですが、現代っ子達はポテトチップスの方を主張します。

「絶対、先生の注意守って危ないことしないから」

と、押し切られました。

みんな、家で練習してきてのポテトチップス作り。皮むきも薄く切るのも、失敗するものかと、どのグループも真剣に何回も聞きに来ます。しかし、早く仕上げたくてあわてるグループも出て来ます。

「先生、たいへんだ。ジャガイモとけて、どろどろだ。どうにかしてけろ」

と、A君。聞いていたB君。

「いい、心配すんな。ぼくだないっぱいあっから、ける」

A君とB君、どちらも運動大好き。だから、サッカーをやってもバスケをやっても、いつも対立することが多かったのです。

B君は、お母さんからしっかりと作り方を聞いて来ていました。そして、彼はクラスメート

新しい公民館に民謡の唄声ひびく

常盤民謡クラブ十周年を祝う

新しい公民館が完成した常盤区で一月二十日、常盤民謡クラブの結成十周年を祝う「民謡の夕べ」が開かれました。

同クラブの会員は現在六人。大井みちよ会長を中心に、公民館活動の一環として民謡を楽しみながら生活をリフレッシュ。この日は、指導している安藤秀岳氏をはじめ町内の愛好団体がお祝いにかけつけ、また地元の弥十郎田植踊保存会が踊りを披露して、唄と踊りに一日を楽しみました。

が、
「あと、ないは」
と、さっさと引きあげたジャガイモ畑をあちこち掘り返し、
「大きなめっけ残し」
と、何個か集めていたのです。

教育実習生の来校

五月の末に、教育実習の先生方がいらっしゃいました。子供達は、若い男の先生のどの授業も喜びましたが、習字と図工の時間は特別だったようです。

習字は、O先生が考案していらっしゃった「うまく書ける下じき」というプリントをいただきました。「はす」の二字を一字ずつ九等分して、書き出しと位置を明確にしてありました。ほめることばも、若い男性の才知をひらめかせ、なかなか大胆。子供達の納得のいく作品ができあがりました。その日、全員の日記には喜びがありました。

図工は、「二人がいっしょ」という題で粘土が使われました。こけし形に丸めた粘土を、へらで下方を縦二つに切って足とし、わきの斜め下に切れ目を入れて手とし、それをつまみ出して形にしていくのでした。みんな喜々として取り組みましたが、苦労する子もいました。そんな子の粘土が、O先生の大きな両手の中にかくれたと見る間に、それらしい形になっているのです。子供達は、ほっとして作業を続けます。

子供に指導するには、きわめ付きの力が必要なんだということを痛く思い知らされました。

▶いつも〝元気が友だち〟西五百川小四年生の子供達

生き物をかわいがる

十月の末頃、ロッカーに上げて置いた小さな容器にタナゴが数匹入れられていました。

「あなた達で、世話ができるかな。学校の大きな水そうで飼ってもらったら」

「だいじょうぶ。ぼく達、ちゃんと水かえて、えさやって世話すっから」

C君が、家から熱帯魚のえさを持って来ていました。

何日か過ぎて、沼から捕って来たと言って、タナゴが増えていました。

「こんなにたくさんいたら酸欠だ」

などと言っているうちに、一匹死んでしまいました。

「先生、いっしょうけんめい世話すっから、もっと大きい水そう買ってください」

翌日、大きな水そうの中にビニル製の水草を入れて行くと、

「ありがとう。でも、ほんとに本物の水草がほしかったんだ」

と言いながら、グランドの端から小石を拾って来て洗い、底にしきつめて手際よくタナゴの環境を作り上げました。

青虫を飼った時も、キャベツがとぎれるなどということもなく羽化するまで見届けました。教室の窓から、三匹のモンシロチョウを見送ったどの子の顔も満足気でした。

＊

はめをはずしたり、いたずらが多い子供達でも、大人が本気になって向かう時、思いやりに満ちあふれた素直さを発揮するようです。子供達に率直なあたたかさをいだいて近づくことが、彼等の宝である「素直さ」や「可能性」を引き出す決め手になるように思います。

小さな教室の中であっても、教師と子供達の励まし合いと磨き合いが、すばらしい交流となって夢と希望の世界を創り出すことを期待しながら、担任は最後の仕上げにかかるのです。

（教育広報委員　小関恵美子）

第16回剣道錬成大会

大谷剣道スポーツ少年団

二月十日、第十六回大谷剣道スポーツ少年団剣道錬成大会と剣道まつりが、北部体育館で盛大に行われました。試合の結果は次のとおりです。

▼**小学三年男女**／一位遠藤裕之　二位鈴木明人・三位長岡由美▼**小学四年男女**／一位白田明・二位堀浩司▼**小学五年男女**／一位池田慶介・二位長岡司・三位五十嵐明聡▼**小学六年男子**／一位川村貢・二位鈴木孝樹・三位五十嵐康徳▼**小学六年女子**／一位佐々木千春・二位鈴木早苗・三位石井香利▼**中学一年男子**／一位渡辺繁幸・二位池田秀和・三位白田裕樹▼**中学二年男子**／一位鈴木裕人・二位白田征治・三位小野卓実▼**中学一年女子**／一位岡崎美樹▼**中学二年女子**／一位森谷志穂梨・二位岡崎麻美・三位渡辺恵理香

こせきのまど　■平成2年12月1日～平成3年1月31日

すこやかに（出生届）

平成2年12月1日～12月31日届出

区名	出生児氏名	父名
高田	佐竹 和人（かずと）	剛
松原	長岡 愛利（あいり）	幸
新宿	熊谷 裕輝（ゆうき）	俊彦
西町	鈴木 翔太（しょうた）	光也
宇津野	佐竹 佑斗（ゆうと）	康志
大谷四	長岡 咲希（さき）	浩利
大谷五	樋口 拓真（たくま）	春美
沼向	菅井 大生（ひろき）	誠吾
西原	高橋 舞羽（まいは）	三男
栄町	松田 健太（けんた）	勝美
本町	長澤美沙希（みさき）	正彦
宇津野	渡邊 一輝（かずき）	惣治

平成3年1月1日～1月31日届出

栗木沢	白田 紘明（ひろあき）	和行

おしあわせに（婚姻届）

平成2年12月1日～12月31日届出

中沢	五十嵐織江（おりえ）	英史
雪谷	鈴木 美穂（みほ）	恵太
常盤		山形市
鈴木	健雄 ♡	井上ひとみ
八ツ沼		河北町
長岡	英大 ♡	原田 弥生
雪谷		山形市
鈴木	義彦 ♡	齋藤 玲子
松程		石須部
鈴木	信二 ♡	長岡 英子
舟渡		山形市
堀	誠 ♡	菊地 典子

平成3年1月1日～1月31日届出

大谷六		大江町
白田	保則 ♡	松田みのり
大船木		河北町
長岡	誠 ♡	片桐 知子

やすらかに（死亡届）

平成2年12月1日～12月31日届出

区名	死亡者氏名	世帯主
大谷二	畑 みつゑ	俊美
松程	阿部 一雄	とよ子
常盤	長岡 一郎	新一
大町	阿部 茂公	澄子
大谷三	菅井まつゑ	良祐
栗木沢	遠藤くにゑ	昭俊
阿部	賢二	俊行
立木	阿部志ゑゑ	雅一
阿部	苗代	苗代
舟渡	堀 竹藏	恒夫
大谷三	菅井つるゑ	勝己
雪谷	鈴木重四郎	正己
栗木沢	遠藤 豊七	勝雄
大沼	白田 誠治	良治
大暮山	阿部 貞藏	芳雄
太郎三	長岡 ゆり	満治
常盤	大井と志を	幸一
八ツ沼	今野 吉郎	吉邦
杉山	鈴木 こう	常雄

平成3年1月1日～1月31日届出

大暮山	阿部モトヱ	清美
大町	成原ジョウ	茂
大沼	小林賢一郎	俊一
大沼	小林ヨシヱ	昭次郎
大町	鈴木 春夫	アサ
大谷二	白田くにゑ	安行
大沼	小林長四郎	武司
小原	菅井 あき	隆一
大町	長岡 力雄	勇雄
常盤	齋藤 大助	幸雄
元町	堀 ふみの	薫
長沼	阿部 とみ	隆夫

●大暮山／阿部　史郎さん　直美さん

さわやか新婚さん

左沢のニット会社で働く２人が、２年間の愛を育みゴールイン。サーフィン好きの史郎さんがデートに誘ったのは日本海や太平洋。そのデートのたびに、直美さん特製の手づくり弁当を持参しては史郎さんにごちそうしたとか。

バレーボール、サーフィンとスポーツ万能な彼が、今一番こっているのはスノーボード。土、日曜日はほとんど自然観スキー場に行くという。直美さんは「子供は三人ぐらい。家族みんなでコテージに泊ってスキーを楽しむのが夢」と語ってくれました。

人口と世帯数

●平成２年12月31日現在		●平成３年１月31日現在	
人　口	10,662（－3）	人　口	10,654（－8）
男	5,280（　0）	男	5,275（－5）
女	5,382（－3）	女	5,379（－3）
世帯数	2,577（－6）	世帯数	2,578（　1）

（　）内前月比

春夏秋冬　編集後記

思いがけず嬉しいニュースが飛び込んで来ました。年一回行われる、山形県広報コンクール広報紙部門で、広報「あさひまち」が特選を受賞。また、組写真部門でも六月号の「萌え渡るブナを求めて」が特選に輝いたという知らせです。

昨年四月から編集を担当している者としては、とても信じられない気持ちでした。これもひとえに、町民みなさんの温かいご支援とご協力があればこそと感謝しております。

取材などを通じ、町民のみなさんに接し感じることは、みなさん一様に朝日町をもっといい町にしたいという熱い思いを抱いているということです。

これからも、町づくりにかける情熱や明るい話題を中心に、町民のみなさんと共に歩む広報紙づくりをめざしますので、よろしくお願いします。（K）